

学びは常に玉川の丘に用意されています。
通信教育部で学んだ先輩を中心に、現在の仕事や地域での活躍をインタビューします。

生涯学べ 第7回 伝統芸能「文楽」の普及が夢



峯田悦子

特定非営利活動法人 人形浄瑠璃文楽座(NPO文楽座)事務局
87年通信教育部で単位取得

1987

小学校の非常勤講師時代。休日に子どもたちと一緒に出かけたときのショット。「体育の先生に」から「小学校の先生に」と気持ちが揺れていた



2003

映像制作会社でのロケ現場で。「学問と情熱」というビデオ評伝シリーズを制作中。やがて2004年「文楽入門」の制作で文楽との決定的な出会い



2008

大阪市内の公立小学校4〜6年生にワークショップを行い、実際に3人1組で人形を操ってもらう。「本物の舞台が観たい」という声が上が



2009



ブルガリア〜ルーマニアでのワークショップ公演。現地の方にも人形遣いを体験してもらった

私の仕事は、人形浄瑠璃文楽の普及活動をサポートすることですが、ところで皆さん、文楽についてのどのくらいご存じでしょうか。

「舞台で人形がお芝居をする」「人形の代わりに大夫が語る」「演奏は三味線」。どれも正解ですが、劇場に観にいった方は少ないと思います。でも、いちど観るとこれを今まで知らなかったなんて損しちゃった、日本の文化ってなんてスゴイんだろう、と思わせられるのが文楽なんです。場面の情景、物語の背景、登場人物すべてのセリフを、ひとりで語り分けるのが大夫。大夫の語りと一体になって情感を表現するのが三味線。そして、文楽の人形は、一体を三人の人形遣いが操る世界でも例を見ないもの。

験にふられ続け、とにかくいちど就職して別の世界を見ようと思えました。PC関連の会社から外食産業へ。マネジャーとして英国に二年間駐在経験もし、このとき叩き込んだ英語と、渉外のノウハウはいまでも役立っています。七年間勤めた中で、自分で企画することのおもしろさに目覚め、映像の企画制作会社へ転職。そこで歌舞伎役者の四代目坂田藤十郎さんのお仕事があったのをきっかけに伝統芸能を海外へ紹介する仕事にも取り組み、文楽と出会ったのです。

歌舞伎や能・狂言ほど世界にも知られていない文楽。でも、その奥深さに「うわあ、すごい」と。息を呑むというか、とにかく魅せられました。制作会社でのご縁もあって、NPO文楽座の事務局をお引き受けすることになり、文楽の本場・大阪に着任。文楽の普及につとめるようになって七年が経ちました。小学校をはじめ、教育機関や公共施設からの要望を受けて、現役の大

生きていくかのような表情と巧みな所作の人形、豊かな喜怒哀楽を表現する大夫と三味線。指揮者が誰もいない舞台で、人情の機微が絶妙の呼吸で描き出されるのです。

東京出身の私が、大阪を本拠地とする伝統芸能の世界に関わることになったのは、ひとりで言えばご縁。もともと体を動かすのが大好きで得意。中学生の頃からずっと「体育の先生になる」と決めていました。大学で中高の保健体育の教員免許を取得しましたが、東京都の採用試験に不合格。大学四年間は水泳指導のアルバイトにも熱中、受験勉強も不十分で当然でした(笑)。卒業後は再受験を目指して浪人。勉強の傍ら、

夫や三味線、人形遣いが出向き、文楽の紹介・体験してもらう活動を中心に行っています。子どもにも学生にも大人にも、文楽の魅力に直接ふれて、「今度観にいかがかな」と思っていただけの企画を心がけています。出張公演、入門教室はいずれも年一〇回程度。トークイベントやフォーラムも企画します。予算とスケジュールさえ合えば日本全国、どこへでも行きます。海外からのオフアームもあり、調整や渉外は大変な仕事だけれど、やりがいがありますね。ひとりでも多く、この伝統芸能の奥深

芸の伝統は守りながら、伝え方は時代に合わせて。「すごい！」と感じた自分の感動をそのまま届けたい。

小学校の非常勤講師に登録し、一日に二、三校を掛け持ちして体育の授業をしていました。

やがて、小学生を教えるうちに、体育だけでなく全教科を教えてみたい、教科が生活に役立つような教え方ができたらと考えるようになったんです。それで、一九八七年に小学校の免許取得を目指して玉川の通信教育部へ入学しました。

でも結局、免許取得には至らなかった。玉川のスクーリングでは先生も熱心、学ぶ環境も素晴らしく、真剣味が足りなかったわけではないけれど、中高の採用試験もあきらめきれず、軸足が定まらなかつたんだと、いま振り返ると分かります。二年間、非常勤講師をし、採用試

さを知ってもらい、次世代につなげる種を蒔きたいのです。

大阪の文楽劇場の近くの小学校には一時期、講師派遣もしていました。ここでは五年生の三学期から文楽の授業が始まります。いまでも数人の芸人さんたちがボランティアで指導を続け、六年生になると全員が学習発表会で一演目を演じきるようになり、地域の方も観にきてくださるようになりました。

「先生への夢」に始まり、紆余曲折してきた仕事も、何ひとつ無駄にはなっていない。全部がつながっている。いつも誰かに助けられ、いまを生かすために、いままでの仕事があると、そう思っています。

NPO文楽座とは？

文楽は人形浄瑠璃の代名詞。江戸時代初期に大阪で生まれ、竹本義太夫の義太夫節と近松門左衛門の作品で人形浄瑠璃が大人気となり、やがて幕末の中心的一座、植村文楽軒の名を取り、「文楽」と呼ばれるようになった。2003年にはユネスコより世界文化遺産に登録。

NPO文楽座は特定非営利活動法人 人形浄瑠璃文楽座の略称。文楽の保存普及につとめ、大阪・東京の国立劇場での定期公演の合間に、体験型の入門教室や出張公演などの要請に応え、イベントも行う。

申し込み・問い合わせ：06-6211-6131

<http://www.bunrakuza.com>



NPO文楽座主催2011年「サロン・ド・ブンラクザ」(早稲田大学・10月20日)で司会を務める峯田さん